

「募金・協賛推進特別委員会」 第14回会議 結果概要

1 日 時

令和7年3月21日(金)10:00～11:00

2 場 所

大津合同庁舎7-A会議室

3 出欠状況

委員9名中7名出席

4 議事概要

報告事項

(1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和6年度取組実績について

【質疑・応答なし】

審議事項

(1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和7年度取組計画(案)について

【質疑・応答なし】

<委員>

審議事項については、承認することとし、次回の総会で報告いただくこととする。

(2) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金推進要綱改正(案)について

【質疑・応答なし】

<委員>

審議事項については、承認することとし、次回の総会で報告いただくこととする。

資料に関する質問等はなし。会議終了前の質疑応答でのやり取りは以下の通り。

<委員>

募金について、目標は設定しているのか。目標に対しての達成率はどのくらいか。

<事務局>

あえて目標は設定せず取り組んでいるが、企業様からよく聞かれるところではある。組織内では寄附協賛合わせて10億円と話しており、現時点では約9億数千万円となっている。

<委員>

他県の国スポでもこれくらい集めているものなのか。

<事務局>

データがある平成26年度の長崎県以降だと、一番多いところで和歌山県の9億7千万円ほど。平均すると6億円くらいになる。

<委員>

募金を集めていただいて、残った場合、寄附や協賛いただいた方の思いが通じるような使い方をしていただければと思う。

<事務局>

寄附者の方々の思いはしっかりと考えて使いたいと思う。

<委員>

滋賀県の国スポ・障スポは認知度が低いと言われていたが、このような寄附金協賛金が集まっている状況を踏まえ、今の段階で認知度は上がってきたと感じるか。

<事務局>

皆様のご支援のおかげで、段々と啓発効果等の認知度は上がってきたという感覚はある。スポーツに関心が薄い方にも認知を広げていく取組をしていこうと思う。

<委員>

グッズの中で一番これは良かったと感じるものはなにか。

<事務局>

特にガチャガチャ。1回100円で回せるカプセルトイの中に缶バッジが入っている。100円ということもありとつきやすい。思ったよりも効果があった。市町での取り組みを参考に実施した。皆様に大会を知っていただくきっかけになっていると感じる。

<委員>

滋賀県全体としても、今大会での寄附協賛の結果は、他の事業に対しての寄附協賛を集める良いモデルになったのではないかと思う。

<委員>

県民に国スポ障スポを認知していただくのに、デジタルサイネージはどうか。すでに企業はデジタルサイネージをもっているのに、横断幕等を作成するよりもコストが抑えられてよいと思うが、そういった働きかけはあるか。

<事務局>

一例として、JR沿線の企業様のサイネージや、県内企業の商業施設等で流していただいたりしている。企業様の協力の度合いも高まっていくと思うので、改めてそういった協力をお願いしていきたいと思う。

デジタルサイネージは有効な広報手段だと考えている。